



2013
0101



すずしん



人口減少社会を直視し ピンチをチャンスに！

昨年の1月、国立社会保障・人口問題研究所は、日本の人口は、2040年には現在の人口から約2千万人減の1億728万人、2060年には約4千万人減の8674万人になると見込まれるという将来推計を発表しました。人口が大幅に減少し、加えて高齢化が進むことは、一般的には大変否定的に受け止められています。税収が減る一方で医療や介護、年金等のための社会保障費が増える、あるいは、子供や若者が減れば社会の活気が益々なくなる等の事態が予想されるため、何とかそうした状況を防ごうと、国や自治体では、様々な少子化対策や、移住・定住促進策を講じています。

しかし、少子化や人口減少の問題は、ここ最近始まったばかりのものではありません。既に1974年頃から、合計特殊出生率は人口維持に必要とされる2.07を下回り、その後も下がり続けてきました。それでも最近まで人口が減少しなかったのは、高齢者人口が現在ほど多くなく、また寿命が延び続けていたからです。最近では寿命の伸びも小さくなり、また団塊の世代が高齢者(65歳以上)の仲間入りをする一方、出生率が低いことに加え、そもそも出産適齢期の女性の絶対数が以前より大幅に減っています。そのため現在は「少産多死」の時代となっており、そうした構造の変化は少なくとも40年以上掛かって生じたものなのです。ですから、人口減少や高齢化を食い止めるために「多産少死」あるいは「中産中死」の人口構造に変えるには、やはり数十年の時間が必要であり、出生率がそれなりに上がったとしても人口減少の流れは当面は変わらないのです。

昨年9月29日の静岡新聞に掲載された伊藤元重・東大教授の論文は、そうした現実を踏まえながら、他県から何とか人を引き付けて人口を増やそうという政策は人の取り合いになるだけで無駄になる、だから、人口増は困難という前提に立って、人口減少問題への対応策を考える方が現実的だと指摘しました。私は

正 しりてめは いける口は 齢

総合研究開発機構 伊藤 元重
理事長・東大教授

地域内の人口移動で活性化

めることは難しそうだ。日本だけではない。世界どこに行っても、一部の例外を除いては、先進工業国は少子高齢化の問題を抱えている。

こうした現実を考えると、なんとか自分の地域の人口を増やしたいと考えても、それが難しい話であることが分かる。日本全体

ゲームとか、囚人のジレンマと呼ばれる状況になっている。人の取り合いになって、成果が上がらないまま、無駄な政策費用だけをかけることになりかねないからだ。

静岡県も例外ではない。他の都道府県から人を呼び込もうとしても簡単ではない。海外からの移民を大量に入れるという決断でもす

の人口が減少している中で、かりにどこかの地域の人口が増えたとすれば、それは別の地域から人口を奪っているにすぎないからだ。

あちこちの地域で人口を引きつけるための政策を行っているとするれば、それは経済学者がゼロサム

れば別だが、そこまで踏み込んで考えている人は少ない。静岡県全体での人口を増やすことは難しいという前提に立って、人口減少の起こす問題への対応策を考え方が現実的である。

県全体の人口は増えないとしても、都市部と農村部の人口の移動

伊藤元重氏の論文（一部）（2012年9月29日 静岡新聞）



昨年の3月に公表された「人口減少社会白書」について大阪府政策企画部の担当者から説明を受ける（11月5日）

「少子化対策が成功すれば人口減少を食い止められる」と言わんばかりの今の政策にかねてから疑問を感じており、9月議会の企画文化観光委員会で、論文を引用しながら少子化対策の意義等について質しました。

人口減少が引き起こす問題よりも、人口減少時代に対応できるように社会の仕組みを今から変えようとしないうと自体が問題を大きくすると私は考えています。また、今からしっかり備えておけば、人口減少社会は、むしろ様々なチャンスや利益をもたらすはずで。例えば、人口が減少した分、ゆとりのある家や公園、学校等を持つことが可能になります。また、食料やエネルギーの自給率も、今の生産量を維持するだけで、人口減少とともに上昇します。更に、人口が減少することは、一人ひとりの役割がより重要になることでもあり、失われてしまった地域のつながりや絆を取り戻すことも可能になるでしょう。

そもそも海外に目を転じれば、人口の爆発的な増加は早急に解決すべき地球的課題となっており、いずれは中国やインド、アメリカ等も人口減少時代を迎えることになります（もしくは迎えなければなりません）。日本は世界最先端の現象である人口減少社会の時代に突入した国であり、人口減少に適応した社会システムを他国に先んじて構築できれば、そのための様々な技術は、世界中に輸出できる有力なものになるのです。

大げさな話のように聞こえるかもしれませんが、実はこうした視点から人口減少社会を直視し、ピンチをチャンスに変えようという取り組みを既に始めているのが大阪府です。詳しくは大阪府が昨年の3月に公表した「人口減少社会白書」（大阪府ホームページからダウンロード可能）を見て頂ければと思いますが、静岡県も同様に取り組むべきと考え、昨年12月18日の一般質問で採り上げました。質問原稿や解説等は私のブログに掲載しておりますので、ご覧の上、ご意見等を賜れば幸いです。

旧年中は実に様々な方々のご縁に恵まれました。心から感謝致します。2013年におきましても引き続きお付き合い下さいますよう、切にお願い申し上げます。

県議会(本会議・委員会)を傍聴しませんか？

2月定例会の日程は以下の通りです。傍聴の手続きは傍聴の当日に県庁本館4階まで来て頂ければ簡単にできます。是非ご自身の目と耳で傍聴し、ご意見をお聞かせ下さい！

2月定例会

2月21日 本会議（開会）、27日～3月1日及び
4日～6日 本会議（質問）、8日及び11日～13日
委員会（質問）、19日 本会議（閉会）

※開会時間等の詳細につきましては、県議会事務局議事課
(電話 054-221-2556) までお問い合わせ下さい。



企画文化観光委員会での質疑

お読み下さりありがとうございます。『すすしん』に関するお問い合わせは…

静岡県議会議員すすきさとる事務所 〒422-8075 静岡市駿河区大坪町3-27
電話 054-281-3715 FAX 054-281-3716 E-mail: mail@suzukisatoru.net
開所時間：月・水・金(休祝日除く) 9時～17時 ※石田街道沿いにあります！

地元に根ざした事務所を目指しています。県議会について話を直接聞きたい、地域の活動等で事務所を使いたいという方、遠慮なくご連絡下さい！ **すすきさとる**

今こそ、
DIYの政治を！